

沖縄県の心身障害児の地域療育システムの検討

落合靖男

要約：沖縄県の遠隔地・宮古諸島・八重山諸島に巡回療育を過去15年間実施してきた。

その成果を親へのアンケートで調査したところ、月1～2回の派遣を主とした巡回療育システムでは親の満足度は低く、地域主体の療育システムを望んでいることが判明した。地域主体に取り組むためには地域の関係機関への意識調査が必要と思い地元の市役所・保健所等にアンケートを依頼した。

今回はアンケート内容について報告する。

見出し語：障害児、巡回療育システム、保健所、市役所、地域療育センター

1. 目的

前年の本研究班で沖縄県の心身障害児の早期発見・早期療育システムについて親へのアンケート調査を実施した。

その結果、内容的には満足するものがありながら指摘された点もあり、特に離島区域においては派遣していく定期巡回療育システムの満足度は30%程度であった。

この結果から遠隔地・離島区域の心身障害児の療育体系の見直しの必要性が感じられた。

心身障害児の地域療育は遠隔地及び離島の市町村が主体的に取り組むことが大切であり、それには今後、保健所・市町村が心身障害児の早期発見・早期療育事業を業務としてどう位置づけられるか、又何が必要なのかを検討することが大切である。

そこで保健所・市町村に対しアンケート調査を実施した。

2. 方法（アンケート調査項目）

- ①現行の心身障害児の早期発見・早期療育事業（定期巡回療育）への貴保健所の業務の位置づけはどのように行っていますか。
- ②現行の心身障害児の早期発見・早期療育システムの中における児童相談所の関与についてどのように評価していますか。
- ③現行の心身障害児の早期発見・早期療育システムの中における福祉事務所の関与についてどのように評価していますか。
- ④現行の心身障害児の早期発見・早期療育システムの中における小児発達センターの関与についてどのように評価していますか。
- ⑤現行の心身障害児の早期発見・早期療育事

業における関係者の連携は充分機能している
と思いますか。

⑥現行の心身障害児の早期発見・早期療育の関
係機関の連携が地元のニーズにどの程度応え
られていると思いますか。

要今後、保健所が業務として主体的に心身障害
児の早期発見・早期療育に取り組むことの必
要性についてどのようにお考えですか。

⑧今後、保健所が中心になって心身障害児の早
期発見・早期療育事業を実施した場合、現行
システムとどのように異なることが予想され
ますか。

⑨今後、保健所にリハビリを位置づけられる可
能性がありますか。あるとすればどの時期で
すか。

⑩もし、リハビリの設置が可能であるとの前提
で専門職の確保についてどのようにお考えで
すか。具体的にどのような職種が必要と考え
られますか。

⑪今後、地元で心身障害児の早期発見・早期療
育を主体的に充実していく方策・機構のあり
方についてどのようにお考えですか。

⑫今後、地元の心身障害児の発見から成人を含
めたトータルケアについて医療・保健・福祉
の役割分担及び連携の望ましいあり方につい
てどのようにお考えですか。

3、考察

沖縄県の遠隔地域（名護以北、南部地区、宮
古諸島、八重山諸島）の離島の心身障害児の巡
回療育事業の成果を家族等からアンケート集計
したところ、地元での医療相談・リハビリ・諸
手当診断書発行等の成果は評価しながらも、巡

回療育システムにはやはり限界があり地元で定
着した療育サービスを望んでいることが判明し
た。

そこで、遠隔、離島地域が主体的に心身障害児
の療育に取り組むためには地域の意識づけが必
要であり、その調査結果を分析して地域療育シ
ステムづくりの資料とする。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:沖縄県の遠隔地・宮古諸島・八重山諸島に巡回療育を過去 15 年間実施してきた。その成果を親へのアンケートで調査したところ、月 1~2 回の派遣を主とした巡回療育システムでは親の満足度は低く、地域主体の療育システムを望んでいることが判明した。地域主体に取り組むためには地域の関係機関への意識調査が必要と思い地元の市役所・保健所等にアンケートを依頼した。

今回はアンケート内容について報告する。